

茨城県衛生研究所
平成24年度評価書

平成25年8月
茨城県衛生研究所
評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価： A- 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取り組みを実施していると判断できる。

(平成23年度：A-)

現行の人員、予算の範囲においては、精一杯のコストパフォーマンスを実現していると評価できるが、緊急度・優先度の高い研究テーマに絞って確実に成果を上げていくことが大切である。
また、試験研究のみに業務の主体を置かず、幅広い研究分野に対応できるようにすること、危機管理の観点から保健所を含めた衛生研究所の在り方の検討を十分に進め、県民の健康確保のための体制を整備することが不可欠である。
なお、組織の強化策については、衛生研究所のあるべき姿や具体的で合理的な目標を定めることが必要であり、他県が実施しているレベルや範囲を参考に、将来の公衆衛生のリスクを明確にして計画を策定してほしい。

□項目別評価

i) 県民に対して提供する業務

1) 調査研究

評価： A

○カンピロバクター属菌の菌数測定技術とPFGE法(パルスフィールドゲル電気泳動法)を用いた疫学に関する調査研究

本県においても重要な原因菌であるカンピロバクターについては、学問的にも未だ確立していない重要課題であるが、本研究は疫学的分析に貢献する基礎技術に関するもので、論理的かつ着実に実施しており、成果も得られていると判断できる。

なお、現場とよく話し合い、対象検体とその後の疫学分析まで視野に入れた研究を進め、研究成果を専門誌に投稿したり、行政指導との関連性も含めた博士号論文にまで発展し、全国のモデルとなることを期待する。

2) 試験検査

評価： A

多くの試験検体についての的確に試験・検査を実施した。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)やコロナウイルス等新たに追加された項目にも対応し、県民の安全性に貢献していると評価できる。

3) 研修指導

評価： A

保健所及び市町村の保健関連職員に対する試験検査技術研究会、講習会を開催するなど、県の指導的役割を果たしていると評価できる。

なお、後継者育成や研究の効率的実施、他機関との連携の観点からも大学生や大学院生の受入を積極的に検討してほしい。

4) 公衆衛生情報等の収集・解析・提供

評価： A

学会等への参加、口頭発表など役割を果たしていると評価できるが、他県の衛生研究所などの情報を収集したり、口頭発表した研究成果を学術誌や専門誌に投稿して成果を広報するなど、県民に対しても積極的に情報を発信するよう期待する。

ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

1) 全体マネジメント

評価： A

企画・評価委員会において適切な評価を受けていること、外部精度管理調査に参加して検査成績の信頼性に努めていること、運営協議会を開催し、衛生研究所の在り方を検討したことは評価できるが、危機管理のための体制は不十分と見受けられる。

なお、調査研究については、緊急度・優先度の高いものに絞って組織をあげて確実に成果をあげていくとともに、外部資金や予算の獲得に一層の努力が必要である。

2) 他機関との連携

評価： B

保健所や健康プラザなど県の他機関や国立感染症研究所とは概ね良好な連携が図られているが、最低限に近い状況であり、連携の意義や他機関の活用の点で検証が必要である。

また、他県の衛生研究所や大学との連携、交流も活発に行ってほしい。

3) 内部人材育成

評価： A

各種の学会、研究会に加えて、国立機関の研修に職員を派遣し、最新の技術の習得に努力していること、全員発表会において課題や業務上の問題などを意見交換していることは評価できる。

なお、採用も含めて優れた人材の確保と育成をどのようにすべきか、運営協議会において検討してほしい。

【様式7】整理表(項目別評価)

衛生研究所

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務		<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>[カンピロバクター属菌の菌数測定技術とPFGE法(パルスフィールドゲル電気泳動法)を用いた疫学に関する調査研究]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所から依頼された食中毒由来菌および認定小規模食鳥処理場衛生検査由来菌について分離同定および菌株の保存(C.jejuni 84株、C.coli 14株)を実施。 ・食中毒由来菌についてPFGE法を実施し、感染源を推定するための予備試験を実施。その結果、PFGE法が血清型別不明株の型別が可能であること、異なる食中毒事例から同じ遺伝子型を示す菌株が発見された事などから疫学解析において有効であることが示唆。 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
		<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>【企画情報部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内流通医薬品等の定量試験,医薬品等及び医療機器一斉監視指導に係る試験検査について、溶出試験、外観試験及び無菌試験を実施。 ・家庭用品試買試験検査について、ホルムアルデヒド、有機錫化合物、有機塩素系溶剤、メタノールの検査を実施。 ・無承認無許可医薬品試験検査について、ダイエット目的、強壮目的で販売された製品の検査を実施。 <p>※すべての検体について、規格基準を満たし違反品はなく、安全性の確認に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工食品の放射性物質試験検査及び水道水等放射能検査を実施。 <p>※すべての検体について、基準を満たしており、県民の放射能に関する不安を解消し、食品・水道に関する安心・安全の確保に貢献。</p> <p>【理化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に即し、輸入食品の残留農薬、遺伝子組み換え食品、食品中の添加物やアレルギー物質等の検査を実施。 <p>※食品衛生法上特に問題のある食品はなく、食の安全・安心の確保に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒・苦情食品等に係る行政依頼検査として、シュウ酸カルシウム、アスパルテーム、アレルギー物質等の試験検査を実施。 <p>※杏仁プリンからアレルギー物質である落花生成分が検出されたため、保健所等に連絡し、被害拡大防止に貢献。その他は食品衛生法上特に問題のある食品はなし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲用水の行政検査として、井戸水の揮発性有機物質、クロム、色度等の検査を実施。特に、牛久市の地下水のクロム汚染に係る広範囲の調査が実施されたため、11月～12月までに452件の井戸水について検査を実施。 <p>【細菌部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係保健所等からの行政依頼検査として、結核、感染症、食中毒に関する検査を実施し、原因究明および行政指導の根拠となり、県民の健康確保に貢献。 ・関係保健所の実施計画に基づく行政依頼検査として、認定小規模食鳥処理場衛生状況調査、生食等食肉の試験検査、輸入食品安全確保事業、飲用水の水質検査等を実施し、県民の健康の確保に貢献。 ・有料検査として、納豆検査を実施し食品の安全性を確認。 <p>【ウイルス部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の4類感染症に追加された重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、中東地域で流行のみられるコロナウイルス(HCoV-EMC)重症感染症の検査体制を整備。 ・感染症流行予測調査事業に伴う検査を実施し、感染症予防対策のエビデンスを確保。 ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき検査を実施し、病原体サーベイランスに必要な情報を確保。 ・食中毒対策事業に係る検査を実施し、保健所が行う調査及び処理に貢献。 ・二枚貝中のノロウイルスの試験検査を実施し、ノロウイルスに起因する食中毒対策に寄与し、食品の安全・安心を図ることに貢献。 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

衛生研究所

評価項目(年度実施計画)		研究所等の自己評価		評価委員会評価	
		評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務	3) 研修指導	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>ア 保健所の検査課等職員に対する試験検査技術研修 ・保健所の検査課職員5名に対し、食品衛生検査および感染症細菌等の研修、検査技術の指導を実施。 ・土浦保健所が新たにノロウイルス遺伝子検出検査を開始するに当たり、検査課職員4名を2班に分けて技術研修(3日間コース)を実施。 ・赤痢菌の同定、鑑別について重点を置き研修を実施。</p> <p>イ 保健所及び市町村保健師等の地域保健関係者の資質向上並びに学校関係者等協力者に対する啓発のための研修の実施 ・保健予防課の実施する新規感染症担当者研修会において、「検体の取扱いと搬送について」の講習を実施(受講者 4/26: 22人)。 ・保健予防課の実施する「感染症発生動向調査等においてゆうパックにより検体を送付するための研修会」において、講師として病原体等の運搬・梱包について実技演習を実施(参加者 5/21:90人, 10/5:41人)。 ・笠間市高齢福祉課ケアマネージャー研修会において「感染症予防対策とインフルエンザ」の講話(参加者 11/15:38人)。 ・社会福祉施設の実施する感染症予防講習会において「社会福祉施設における感染症予防対策」の講話(参加者 11/28:20人)。</p> <p>ウ 水道水の検査機関に対する試験検査技術の研修の実施 ・10水質検査機関を対象に水道法の水質基準項目の塩素酸について外部精度管理を実施。 各機関における変動係数はともに、すべての機関で10%以下と小さく測定精度は良好。また、回収率は10機関すべてが90~110%の範囲内にあり、良好と判断。 検査機関の検査精度が確認され、県内における適正な水道水供給に貢献。</p> <p>エ 外部からの研修生の受け入れ ・保健予防課関係インターンシップ実習生1名(教育学専攻3年)及び生活衛生課関係インターンシップ実習生1名(獣医学科5年)を受け入れ、若年者の職業意識の育成及び主体的な職業選択能力の向上に貢献。</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
	4) 公衆衛生情報等の収集・解析・提供	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>ア 研修会、会議、学会等による保健衛生関係者への普及・PR イ 主要調査研究成果の定期的な公表、論文等 ・感染症シンポジウム、日本食品微生物学会、希少感染症診断技術研究会に参加し、情報の収集に努め、業務に反映。 ・地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部ウイルス研究部会において、「茨城県におけるインフルエンザ検査状況」について発表(9/27, 28)。 ・第44回 日本小児感染症学会総会において、「麻しんの非流行期における遺伝子検査の重要性」について発表(11/23~25)。 ・病原微生物検出情報(IASR)に、「茨城県における麻しんの検査診断」を掲載。 ・地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会(栃木県で開催2/15)に次期開催県として参加し情報等を収集。 ・各種学会、研修会への参加(企画情報部9回、細菌部10回、ウイルス部11回、理化学部8回)。</p> <p>ウ インターネットを活用してのPR ・地方感染症情報センターのホームページに感染症発生動向調査事業における毎月の病原体検出情報を掲載し、県民や医療機関に情報を提供。 ・放射能検査結果について、逐次県ホームページ等で公表し、県民の放射能汚染への不安解消に貢献。</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

衛生研究所

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
ii) 業務の質的向上・効率化	1) 全体マネジメント	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>ア 企画・評価委員会による適正な評価 平成24年7月26日(木)に調査研究企画・評価委員会及び機関評価委員会を開催。 完了報告1課題, 計画変更課題5課題(定期人事異動に伴う担当の変更について)の調査研究評価及び承認並びに調査研究完了報告1課題及び業務概要報告について年度評価を実施。 ※衛生研究所運営協議会が, 6月25日・9月4日の計2回開催され今後の衛生研究所のあり方を検討。当研究所の強化のための検討が継続。</p> <p>イ 外部精度管理による検査成績の信頼性確保のための業務管理の徹底 ・食品検査に係る外部精度管理調査(玄米中の重金属, 漬物中のソルビン酸, 野菜中の残留農薬, 大腸菌及び大腸菌群の計5検体)。 ・水質検査に係る外部精度管理調査については, 分析機器稼働不良のため不参加。 ・医薬品試験検査に係るPIC/S加盟に伴うGMP体制の整備については, 次年度対応。</p> <p>ウ 危機管理対応のための理化学検査体制の強化 ・被災機器の点検・修繕を実施。現在実施している計画的行政検査に使用する機器については, 点検・修繕を実施し, 検査機能を回復。 ・放射能検査体制の整備を図り, 前年度から引き続き水道水放射能検査のモニタリング, 加えて加工食品の放射能検査を実施。</p>	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>[附帯意見] 調査研究については, 緊急度・優先度が高いものに絞って組織をあげて確実に成果をあげていくとともに, 外部資金や予算の獲得についても一層の努力が必要である。</p>
	2) 他機関との連携	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>ア 保健所との連携 ・食品衛生監視指導計画に基づく収去検査及び食中毒・有症苦情等に対し理化学試験を実施。 ・「食品衛生関係の試験検査業務について」及び「茨城県感染症発生動向調査事業実施要綱」等に基づき, 保健所から依頼のあった検体について試験検査を実施し, 県民の健康の安全の確保に貢献。</p> <p>イ その他の機関との連携 (ア) 県立健康プラザ 健康プラザとの連携協力については, 進展がなく次年度以降の課題。今後, 健康危機管理と健康づくりの相互の特色を活かした連携協力について具体的な施策を検討。 (イ) 他の試験研究機関 ・2度のゲルマニウム半導体検出器の不具合において, 環境放射線監視センターとの連携により, 支障なく迅速に検査結果を報告。 ・国立感染症研究所と情報交換を行い, 試験検査やデータの解釈などに活用。主な連携先は, 麻しんウイルスについてはウイルス第三部第1室及び感染症情報センター第3室, インフルエンザウイルスについてはインフルエンザ研究センター第1室, ヘルペスウイルスについてはウイルス第1部第4室等。 ・希少感染症や検査体制が未整備の微生物について, 国立感染症研究所に検査・診断を依頼し情報交換を行い検査・解析に活用。 細菌部40件: ライム病(ボレリア)7件, レプトスピラ7件, アシネトバクター(PFGE)26件 ウイルス部6件: リケッチア抗体価測定及び遺伝子検査2件, アデノウイルス遺伝子型別検査2件, SFTS遺伝子検査1件, ツツガムシ抗体価測定及び遺伝子検査1件</p>	A	<p>○質の面において平成24年度計画を未達</p> <p>[附帯意見] 他機関との連携は最低限に近い状況であり, 連携の意義や他機関の活用の点で検証が必要である</p>
	3) 内部人材育成	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>・各種学会, 研修会への参加(企画情報部9回, 細菌部10回, ウイルス部11回, 理化学部8回) ・分析機器の操作・解析等に関する分析・研修セミナーへ職員を派遣する(企画情報部3回)。 ・国立保健医療科学院が実施する短期ウイルス研修に職員を派遣。 ・国立感染症研究所が主催するインフルエンザ(H5N1同定技術研修会)に職員を派遣。 ・国立医薬品食品衛生研究所においてkudoa septempunctata および Sarcocystis fayeri の技術研修を受け, 新しい技術を習得。 ・機関内部の研修として, 第1回茨城県衛生研究所研究発表会(職員全員発表)を開催。</p>	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p>